旭岳温泉クロスカントリースキーコースを利用するに当たり

2010 年 11 月 27 日
旭岳温泉クロスカントリースキーコース
利用者コーチ一同

ここ旭岳温泉のクロスカントリースキーコースにおいては古い歴史があり、始まりは 1972 年２月に開催された札幌オリンピックのクロスカントリースキーチームの事前合宿の合宿地として旭岳温泉が選出され、実際には 1971 年 11 月に入山し、雪上トレーニング合宿をしたのが始まりだったそうです。

選ばれた理由としては、まず雪が早く降る事、高所である事、そして比較的平坦である事などが選ばれた要因だったそうです。

そして、札幌オリンピックが成功に終わり、翌シーズンの 1972 年 11 月からここ旭岳温泉がシーズン初めのスキー合宿地としてアスリートに認められて旭岳温泉に大勢のアスリートが集まるようになったそうです。コースの設営においては、当初から大変なご苦労があったそうです。

当時の北方スキー（現在の冬戦教）を初めとし、大学のスキーチーム（日大・日体大・専修大・東洋大）などが力を合わせてコース作りをしたそうです。　当時は、いつでもスノーモービルなどがあった訳ではなく、足（スキー）で踏み固め、そこへコースを付けて行く地道な方法だったそうです。

今でこそ、ピステンやスノーモービルなどを用いてコース設営をしていただいていますが、過去は人力が主で、時々、自衛隊の持ち込んだスノーモービルでコース設営をする事もあったそうです。

ここ旭岳温泉は、国立公園であり、最初からスノーモービル・ピステンなどの乗り物の乗り入れが許された訳ではありませんでした。それを、ここでスキー合宿をしてもらうために地元の東川町観光協会旭岳部会（以後、観光協会）の方々が国の機関に掛け合って、それを可能なものにしてくれた事も忘れてはいけないと思います。

当時の合宿の始まりは、ほんの数軒の宿の協力から始まりましたが、時間を追う事にアスリートが集まりはじめ現在に至っている。次第に集まって来ているアスリートへ安定した条件の良いスキーコースを提供して、効果のある合宿にしてもらうために地元の観光協会でスノーモービルを購入し、コース設営のサービスを始めたのが今から 30 年ほど前の事だそうです。

それから今日まで、スノーモービル 4 台、ピステン 2 台とその燃料代を地元の観光協会で経費負担し、アスリートにより良いトレーニング環境の提供を目指し頑張って来ました。但し、初代のピステンと 4 代目（現在のもの）のピステンは、東川町の大変なご理解・ご協力により観光協会と合わせた経費負担をしていただいている事プラス、特に 4 代目においては、ここ旭岳温泉をこよなく愛していただいて合宿地として利用してくれているアスリート及び監督・コーチらのご協力により、東川町からのより多くの経費負担をしていただける原動力になった事は、感謝のしようがないほどの素晴らしい出来事でした。

しかしながら、これまで行って来た『より良いトレーニング環境の提供』をする事が、大変厳しい状況になりつつあります。　と言うか、大変厳しい状況です。　ここ東川町観光協会旭岳部会の宿泊は、現在、通年営業をしている宿がほとんどですが、その中でもスキーアスリートが利用する宿としない宿

とがハッキリ分かれています。　例えば、宿泊者のない宿も宿泊者のある宿も観光協会として私達スキーコース利用者のためにクロスカントリースキーコース維持管理費（以後、維持費）を出していただいています。

その維持費とは、例えば、ピステン・スノーモービルなどの燃料費であったり、それが故障した場合の修理費であったり、または、その他の設備経費を指しています。その維持費の捻出については、夏の営業（登山）で得た利益を提供をしていただいていると言う内容です。

そのような事で言うと、スキーアスリートが宿泊する宿としない宿とでは、維持費を出し易い・出しにくいという事が必然的に起こって来ると思います。

一つの要因として、近年ここ旭岳温泉で合宿をしていたアスリートが、美瑛・白金温泉の国立大雪青年の家に宿泊をし、美瑛で合宿すると言うアスリートが増えて来ているのです。このような事態になれば、当然、維持費を出す・出さないと言う論争に加え、なぜ？白金にアスリートが流れているのか？…と言う話し合いになり、極論、スキーコースの運営・維持管理をする・しないの話しになる事が当たり前の事だと感じます。

そこには、例えば、今シーズンのように全体的に雪が降らず、限られた場所でしかスキーに乗れない事態になったとしても、旭岳には雪があると言う事で美瑛に宿泊しているアスリートが美瑛から旭岳にスキートレーニングをする目的だけで訪れる事になり、美瑛の観光協会・国立大雪青年の家が果たすべく役割（努力）をせずに宿泊してもらっているだけと言う事になると思います。

このような便利主義で良いのでしょうか？　また、国立大雪青年の家の利用方法も多様化しているところ（教育機関の研修、企業のスキルアップ研修など）でもあるはずです。

このような事では、民営を圧迫しているように感じます。ここで関係各位が集まり、お互いの役割を尊重した上で、各々を存続する・または協力すると言った話し合いが必要に感じます。そうでなければ、一方的に不平不満が出る事が必至で、これを解消せずにこのままスキーコースの運営・維持管理をして行く事が非常に難しなって行くのではないかと思います。このような事態になる・ならないに関係なく、今後の各々の運営・維持管理をしていく中で、最良の方法を見出さなくてはいけないと考えます。

私達、旭岳温泉のクロスカントリースキーコースを利用させていただいている者も、このスキーコースを存続していただけるようにするために、例えば『利用者の心得』であったり、『歴史』であったり、『マナー』であったり、とにかく古い時代からの話しを後進のアスリート・監督・コーチらへ伝えて行く事も重要と考え、協力を惜しまない所存であります。

また、ここ旭岳温泉には、夏冬問わず沢山の多目的な利用者が訪れます。その利用者（観光客、ナチュラリスト、アスリートなど）が、いつ訪れても楽しめるような環境である事が本当に望ましい姿であると思います。

そのような環境になる事に期待したいと共に、既にある環境を維持・管理していただける事に期待し、私達も、これまで以上にスキーコース設営のための協力としてスキーコースへの雪入れ、コース付けなど維持管理にボランティア精神を持って、アスリート・監督・コーチら一丸となって行う事を惜しみません。　是非、宜しくお願い致します。

（原文のまま掲載しました。）